トランプ政権下の朝米関係

倉田秀也（防衛大学校）

1. 二つの前提の崩壊

(1) 北朝鮮の「2 国家論」

- ・統一否定／「大韓民国」との敵対的共存
——「大韓民国とは、いつまでたっても統一は成就できない」／「北南関係はもはや同族関係、同質関係ではなく、敵対的な二つの国家関係、戦争中にある二つの交戦国関係として完全に固着しています」（金正恩党第 8 期第 9 次拡大会議演説、23 年 12 月）

(2) 「非核化」の拒絶

- ・過去の「非核化」交渉との対比——米朝協議・6 者会談・米朝首脳会談
——「安全の保証」・平和体制樹立との「取引」
- ・「モラトリアム」と「国防 5 年計画」
——「モラトリアム」発表（18 年 4 月）
 ➡核実験停止、ICBM、中長距離弾道弾発射停止
——「国防 5 年計画」（朝鮮労働党第 8 回大会、21 年 1 月）
 ➡戦術核開発／水中・地上固体燃料 ICBM／軍事偵察衛星／射程 15000 キロ ICBM／極超音速滑空飛行弾頭の開発／原子力潜水艦・
——「モラトリアム」解除
 ➡中距離ミサイル「火星-12」（22 年 1 月発射）、固体燃料化 ICBM（「火星砲-18」発射、23 年 4 月）、多弾頭化実験（24 年 6 月失敗？）、1 万 5000 キロ射程 ICBM「火星砲-19」発射、24 年 11 月）、軍事偵察衛星「万里鏡」（発射実験、23 年 5 月失敗、23 年 8 月失敗、23 年 11 月成功、24 年 4 月失敗）
——「国防計画」の継続？
 ➡「核戦力を含む全ての抑止力を不可逆的に強化する一連の新たな計画事業」（金正恩、国防省祝賀訪問時、25 年 2 月）

2. 「2 国論」と対南・対米関係——2018 年との対比

(1) 対南関係の敵対的管理——「敵対的交戦国関係」の継続

- ・「拡戦（escalation/aggravation）」の概念
——「膨大な双方の武力が対峙している軍事境界線地域でいかなる些細な偶発的要因でも物理的衝突が発生し、それが拡戦しかねない」
- ・「平和的共存」と「敵対的共存」

- 「最も敵対的な二つの国家が併存していることは誰も否定できない」
(金正恩高人民会議第14期第10次会議演説、24年1月)
- ・南北不可侵文書の空洞化？
 - 「南北基本合意書」(92年2月)
 - 「南北関係発展と平和繁栄に向けた宣言」(金正日＝盧武鉉、07年10月)
- (2) 米朝協議の条件——「対朝鮮敵視政策」の撤回
 - ・米韓拡大抑止の低減
 - 「すでに米国の対朝鮮敵視政策が撤回されない限り、いかなる朝米接触や対話も行われたいとする立場」／「われわれと一度でも対座することを待ち望むのなら、悪い癖から直し、はじめから態度を変えなければならない」(崔善姫外務次官、21年3月)
- (3) 韓国関与なき平和体制？
 - ・多国間(3者もしくは4者)枠組の
 - 「南北関係発展と平和繁栄に向けた宣言」(金正日＝盧武鉉、07年10月)
 - 「板門店宣言」(金正恩＝文在寅、2018年4月)
 - ・宣言的措置(朝鮮戦争終結宣言)

3. 非核化なき米朝協議——「モラトリアム」部分的復活？

- (1) 検証なき「軍備管理」？
 - ・第2回米朝首脳会談(19年2月～)と「申告」問題
 - 「寧辺+α」と降仙ウラン濃縮施設
 - ・バイデン、米朝「軍備管理」発言(CFR、19年8月1日)
 - FFVD(Final, Fully, Verified Denuclearization)への過程
- (2) 宣言的措置——ICBM発射停止？
 - ・トランプ発言
 - 金正恩と再び「接触するつもり」(25年1月)
 - 北朝鮮「核保有国(nuclear power)」発言(25年1月)
 - ・米韓 decoupling の懸念
 - 米韓「ワシントン宣言」(バイデン＝尹錫悦、23年4月)への波及
SSBN 定期的韓国寄港／NCG

(了)